

ワークショップ 8

「咽喉頭・食道腫瘍に対する内視鏡診療の最前線」

司会 武藤 学（京都大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座）

北村 陽子（市立奈良病院消化器肝臓病センター・消化器内科）

進行咽喉頭・食道腫瘍は、嚥下・発声機能を損ない、患者 QOL に大きな影響を及ぼす。近年、画像強調・拡大観察、AI 支援診断、ESD を中心とした低侵襲治療、治療後サーベイランスの進歩により、内視鏡診療の重要性は増してきた。また、飲酒・喫煙や Lugol-voiding lesion に基づく field carcinogenesis の理解は、異時性癌のリスク層別化と継続的な禁煙・禁酒指導による二次発がん予防の重要性を示している。本ワークショップでは、咽喉頭・食道腫瘍に対する内視鏡診療の先進的な演題を広く募集する。